

令和3年7月1日発行

多摩永山中学校だより

令和3年度 第4号

多摩市立多摩永山中学校 編集・発行 齋藤 裕
<http://schit.net/tama/jhtamanagayama>

1年移動教室を終えて 1学年主任 光益 潤

今年度の移動教室の実施に至るまでには、感謝の気持ちしか思い浮かびません。

当初5月に予定していましたが、緊急事態宣言の延長のため、延期を余儀なくされました。宿舎の八ヶ岳少年自然の家が6月に受け入れ予備日を設けているということで、6月21日から23日までを延期日として計画しました。「きっとこの時までには緊急事態宣言はとっくに解除されているだろう」という前提のもとでの順延でしたが、実際には解除直後のかなり際どい日程でした。

順延するにあたって、現地の方々との調整が必要でした。「東京都の感染状況から不安がある」という声も現地からあったのは確かです。それでも、「学校と多摩市がよければ、お互いに感染防止対策を講じた上で喜んで引き受ける」というお返事を得て、実施の運びとなったところです。

当然この3日間は例年とは日程も内容も少しずつ異なりましたが、例年に劣らず実りあるものとなりました。1日目の魚釣りでは、慣れない手つきで釣り竿をつかみ、餌を仕込み、魚を捕らえ、火を通して魚をいただきました。ここで改めて、命をいただくことへの感謝を抱きます。2日目の午前中は、農業体験でレタスと小松菜の収穫体験をしました。なじみのない鎌の使い方を教わりながら野菜を収穫します。現地の人からの「その場で一枚とって食べてみてください」という声掛けに応じて採りたてのレタスを味わう生徒もいました。いつもと違う苦みです。それは、自然の力だけですくすくと育ったレタスの味でした。午後は陶芸の体験です。粘土でコップを作りました。お招きした先生によると今回使った粘土は、地面で何千年の間かけて構成された土でできているそうです。その土で焼かれたコップは生徒たちがやがて私と同じような年齢になっても十分に使えるとのことでした。コップは乾燥と焼き入れを数ヶ月繰り返して、1月の永光祭展示の部にはお目見えます。3日目は、ほうとう作りを学びました。大根やニンジンといった具材を刻み、小麦粉と水を混ぜるところから麺を作り始めました。地元で作られた付け合わせのレタスのサラダも逸品で、ほうとうとともにいつまでもおかわりが絶えませんでした。

移動教室自体は、多摩永山中学校で何年も前から続いている行事であり、あって当然の存在となっていました。しかし、感染症予防対策が必要な中、その当然が当然でないのが現状です。説明会を通して実施に向けて前向きに御協力いただいた保護者の皆様にも感謝申し上げます。また、しっかりとした対策の上で受け入れて頂いた少年自然の家を初めとした各施設の職員の皆様にも感謝の念しかありません。そして、1学年の生徒たちは、このような恵まれた環境の中、移動教室でしか得られないことを学びました。この3日間は多くのことを体験して楽しみながら学んだだけではなく、失敗したことを通して、集団で生活することについて教員から叱咤されて学んだこともあります。その中で、この3日間を安全で健康に過ごした生徒たちにも感謝しています。最後に、一滴も雨が降らず、すべて予定通りに実施ができたことにも感謝です。本当にありがとうございました。

1年移動教室実行委員長 大月 隆寛

僕は、長野県や山梨県にある施設で三日間沢山体験しました。

一日目は、鱒釣り体験がありました。指定された場所で2～3人のグループで釣りました。僕たちのグループでは、なかなか釣ることができなかったのですが、上手な人のまねをしてみたり、暗い場所や岩陰に釣り糸をたらしめてみたりした結果、数匹釣ることができました。三人で試行錯誤しながら釣ったので、より絆が深まったと感じています。

二日目は、農業と陶芸の二つの体験がありました。有機農法をしている農家の作付面積が日本全体の0.4%と少ないことが意外でした。有機農法の育て方が難しいのかなと思いました。収穫体験では、根に近い部分を切るのが難しかったです。無農薬なのに立派に育っていたので相当な努力をされているんだろうなと思いました。陶芸では、コップを制作する大変さに気がきました。難しかったことは、形を整えることやそれぞれの箇所具合です。でこぼこしていたら見映えが悪いし、取っ手の付き具合が甘かったら取れてしまうし、模様を強く描いたら穴が空いてしまいます。一つ一つ丁寧に、真剣にやらないと成功しない体験でした。

三日目は、ほうとう作り体験がありました。麺を一から作っていきました。特に、こねる作業が大変で六人で交代しながらこね

ました。すすっと、一瞬で食べている麺も沢山の工程があり、作るのも大変なことを知ったので、有り難く一本一本味わい深く食べたいなと思いました。また、自分も作った関係者なので自画自賛ですが、なおさら美味しかったです。

この三日間で前の自分に比べて成長したと思います。この三日間を通して、日頃使っていたり食べていたりしている物や食品は当たり前ではなく、誰かが苦勞して生産されているものなので、当たり前と思わず、今ある物に感謝を感じながら使おうと改めて思いました。

運動会の成功を支えた実行委員たちの言葉

運動会実行委員長 3年3組 岡出 泰生

今年は、スローガンの「活発笑美戦」を達成することができたと思います。それは、私が沢山の人の笑顔や楽しむ姿を見ることができたからです。また、個人競技やクラス競技のどれも、とても白熱した良い戦いになっていたと思います。今年は、コロナ禍で感染者数が増えてきている中で、1日運動会を行えるようにしてくださった先生方に感謝しています。今年は、最高の運動会になりました。ありがとうございました。

運動会実行副委員長 3年1組 川上 恋

今年は、コロナ禍なのにも関わらず、中学校最後の運動会を実施させていただき、ありがとうございました。私自身、この3年間で勝てたことは一度もなく、特に今年は大きな差をつけられて最下位となってしまいました。しかし、私もクラスの皆も、「やりきった」という清々しい表情をしていたのが印象的です。練習の時から様々なドラマがあり、そんな中で挑んだ運動会は、どのような結果でも特別な思い出として残ったと思います。また、仲間との繋がりや思い出を感じると、卒業も意識させられました。これから、修学旅行や合唱コンがあります、それらをより大切にしたいと改めて実感する機会ともなりました。このような特別な行事に実行委員として関わることができて良かったです。ありがとうございました。

運動会スローガン発案者 3年1組 志田 湖春

この「活発笑美戦」というスローガンは、その名の通り、全員が「活発に安全に、笑って、時には美しく戦えるように」という思いを込めたスローガンです。実際に運動会では、怪我をしてしまった人や体調が悪くなってしまった人がいたけれど、無事に終わることができて良かったです。私にとっては、三年間で一番楽しい運動会になりました。ありがとうございました。また、スローガンを作品に仕上げてくれた美術部の皆さん、ありがとう。

校外での活躍も立派

【部活動の戦績】

◆第7ブロック日南地区中学校ソフトテニス選手権大会

男子団体第3位（都大会出場権獲得）

山元 涼雅・村本 一晃ペア

森永 翔大・森永 健大ペア

横井 風豊・木下 翔梧ペア

大柿 陸・大日向 恵惟ペア

◆第7ブロック日南地区バドミントン選手権大会

男子シングルス第4位 渡部 海秀

◆第72回東京都中学校地域別陸上競技大会

女子西部共通 1500m 第2位

4分59秒93 松田 悠楽

第72回東京都中学校地域別陸上競技大会

女子西部2・3年 800m 第5位

2分23秒33 松田 悠楽

◆多摩市中学校春季バスケットボール大会

2年生女子の部 優勝

○ 対 東愛宕中 ○ 対 和田中

3年生女子の部 優勝

○ 対 聖ヶ丘中 ○ 対 青陵中

◆第7ブロック中学校夏季剣道大会

男子個人戦 河野 優人（都大会出場権獲得）

○ 1-0（河野 対 鏈水中）

○ 1-0（河野 対 七生中）

○ 1-0（河野 対 日大三中）

● 0-1（河野 対 石川中）

◆バレーボール多摩地区大会（大会勝ち残り中）

○ 2-0 対 都立三鷹中等教育学校

○ 2-0 対 東久留米南中

◆東京都中学校新体操選手権大会・関東中学校新体操大会

京予選出場 成岡 季 アンジェラ

